

平成22年国勢調査の意義・特色

1 人口減少社会における最初の国勢調査

我が国の人口は、少子高齢化の進展により平成16年をピークとして減少に転じました。平成18年からは3年連続で合計特殊出生率が上昇し、出生率の低下が反転する兆しも見られますが、自然減少に歯止めがかかるには至っておらず、我が国は過去に例のない人口減少社会を迎えたところではあります。

我が国の社会は、人口が減少する中、出生率の回復、高齢者介護・医療の維持、年金・社会保障制度の安定化、経済活力の維持、地域の社会機能の維持、高齢者の就業延長、若年層の雇用の安定化など様々な重要課題に直面しています。

平成22年国勢調査は、我が国が人口減少社会を迎えて最初の国勢調査として、国及び地域レベルでの人口と世帯の実態を様々な角度から描き出し、その結果を信頼性の高い統計として提供することを使命とするものです。その結果は、国及び地方公共団体において、これら重要課題に対する適切な施策の策定・推進に活用されるとともに、多くの国民が国及び地域の現状や課題について適切に理解し分析することができるよう、広く一般の利用に供されるものです。

2 人口減少社会における持続的発展のための基礎データの提供

- ・少子高齢化に伴う人口構造、就業構造、世帯構造、世帯の住まい方などの変化を捉える統計の提供
- ・新たな視点の社会経済の実証分析への対応（社会経済の変化、新たなニーズに応じた追加的な統計の作成・提供）

3 最近の社会経済の課題に対応するための基礎データの提供

(1) 雇用形態の実態

- ・深刻化する雇用情勢に対応した就業・不就業の状況を把握する統計（全国及び地域別に把握）
- ・産業構造の変化や雇用形態の実態を明らかにするための統計（雇用者の正規・非正規別の就業の状況をよりの確に把握）
- ・派遣労働者の就業の実態を明らかにする統計（派遣労働者が実際に従事している事業内容を把握）

(2) 地域別の人口・世帯の分布と特性

- ・地域問題の各種施策や地域分析におけるきめ細かな利用を考慮し、都道府県・市町村別統計の充実のほか、町丁・字別などの小地域統計を提供
- ・「平成の大合併」に伴って広域化した市町村について、過去と比較できるように、平成12年国勢調査時における市町村の境域による統計を提供

(3) 外国人の分布と特性

- ・ 地域における外国人の分布状況の把握
- ・ 外国人世帯の居住状況の把握
- ・ 外国人就業者の産業・職業等の実態の把握

(4) 世界人口センサス計画の一環として地球的規模への対応に寄与

- ・ 国際連合は、食糧、エネルギー、環境などの地球規模の諸課題に適切に対応するため、世界各国に世界人口センサス計画への参加を勧告しており、我が国の国勢調査はその一環として実施
- ・ 社会経済のグローバル化が進展する中で、正確な国際比較が必要であることから、国際基準を踏まえた統計の作成・提供